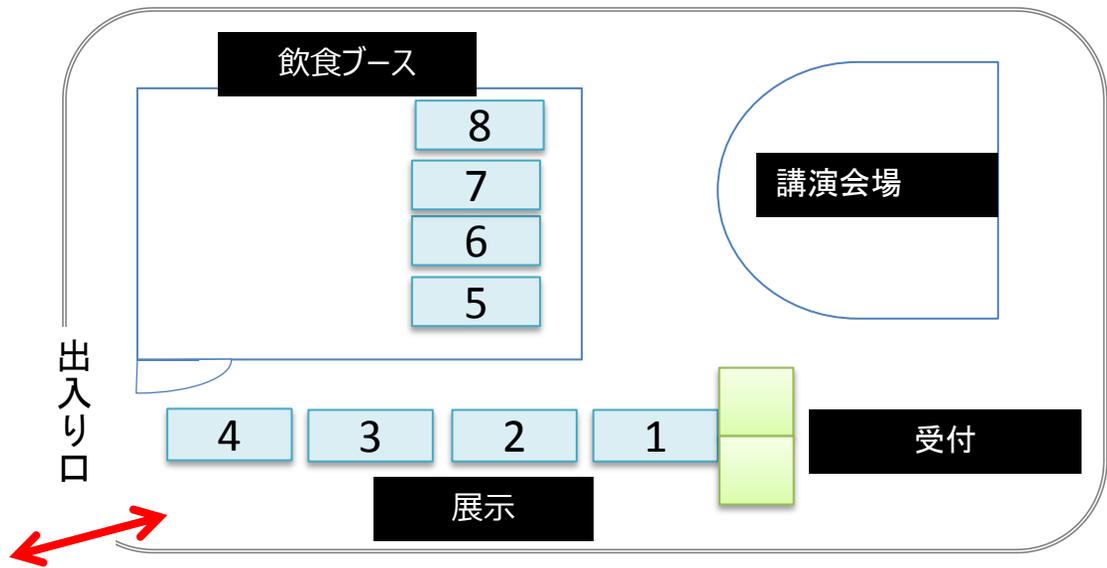


# 出 展 者 紹 介



## 1 ヨシモトポール

当社は昭和36年に創業したポール(柱)の総合メーカーとして、都市の美しさを引き立てる「景観」、公共・交通インフラや防災対策での「安全」を目指して全国に展開しております。

昭和43年には農業関連事業に参入し畜産用のFRP製飼料タンクの製造販売を手始めに現在では養豚施設の設計から施工までを全国で展開しております。

農業分野では数年前から環境にやさしい「微生物共生循環型水耕栽培」を研究し、特殊な機能性作物の通年栽培方法を確立致しました。この栽培技術を基に農業の六次産業化を目指した「農業法人ワイピーファーム」を一昨年設立し近年増え続ける遊休農地の活用による農業振興、安全安心な作物づくりで健康寿命延伸に向けたヘルスケアに貢献して参ります。



## 2 フロイント産業株式会社

フロイント産業は、半世紀にわたり、国内・外の製薬メーカーに、造粒・コーティング装置(機械セグメント)、医薬品添加剤、食品品質保剤(化成品セグメント)の供給をとおして、世界中の人々の健康な生活の向上に貢献をしております。

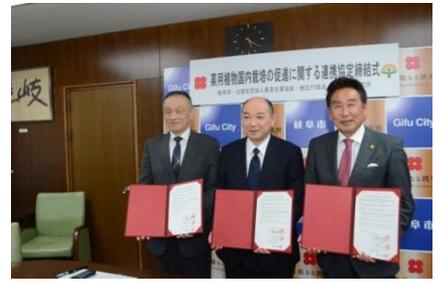
漢方薬の分野におきましても、生薬由来の物質(植物ほか)の粉碎、分級(ふるい)、乾燥に適した装置を提供しております。

また、昨今のセルフメディケーション志向の高まりによる栄養補助食品(サプリメント)市場の拡大に、異業種から市場に参入されるユーザーと当社の持つ“製剤技術”を応用したタブレット、顆粒の共同開発、製造の受託事業も行っております。

## 3 岐阜県岐阜市

本市は、天武天皇時代(685年)、薬草の煎じ薬を作らせたという最古の記述が日本書紀にあることから、「製薬業発祥の地」と言われております。また、岐阜市立岐阜薬科大学には、研究施設として薬草園が設置されており、栽培環境が整っております。こうしたことを踏まえ、本市では、平成26年度に「薬用作物産地化調査事業」を実施し、平成27年3月には公益社団法人東京生薬協会、独立行政法人医薬基盤研究所と三者間で栽培促進に関する連携協定を締結しました。

平成27年度からは、キキョウ、カワラヨモギ、ハトムギ等の栽培を開始し、有識者や農業団体で構成する「岐阜市薬用作物栽培推進会議」で生産拡大や販売戦略等の協議を進め、市内生産者と漢方薬メーカー等との栽培契約に向けた取り組みを進めております。



## 4.5 奈良県

奈良県では、歴史的にゆかりの深い漢方について、生薬の生産拡大、関連商品・サービスの創出等に取り組む「漢方のメッカ推進プロジェクト」を推進しております。

その中で、漢方派生品として、大和トウキの葉の「ハーブ」としての活用、用途拡大にも力を入れております。

本日は、トウキ葉を使って開発された商品を中心に、下記のとおり2ブースに分けて展示等致しますので、ぜひ触れて、味わって、新たな可能性をお確かめ下さい。

### ■展示ブース

お茶、ハーブソルト、入浴剤、化粧品、トウキ葉粉末など

(出品者: (株)バンドラファームグループ、(株)テラス、(株)奈良ロイヤルホテル  
(株)クラブコスメテックス、(有)ポニーの里ファーム、益田農園)

### ■試飲・試食ブース

青汁、やくぜん茶、クッキー、浮島(和菓子)など

(出品者: (有)桂花※、(有)ポニーの里ファーム、(社福)奈良県手をつなぐ育成会、奈良県)



### 【本日の講演者】

中国菜館桂花 オーナーシェフ 小倉 聡 氏

(中医薬膳師、(一社)大和ハーブ協会 代表理事、(一社)奈良のうまいもの会 理事・連携推進委員長)

古来より「医食同源・薬食同源」の思想を重んじてきた中国料理の料理人として、生薬原料を料理に活かした薬膳料理を研究する傍ら、2年前から奈良県の「漢方のメッカ推進プロジェクト」に参画して大和当帰の主に葉を活用した料理や食品の開発に力を注いできた。

特に、食材としての大和当帰葉についての味、香り、旬、生薬の調理、乾燥法、エキス抽出法、粉末化、相性などの研究によって活用範囲の可能性の拡がりに確信を深める。現在、奈良県の生薬栽培農家との連携を軸に料理メニューのみならず、菓子、健康食品、介護食、清涼飲料水などの開発を手掛けている。

## 6 富山県

富山県は「くすりの富山」として300年を超える歴史と伝統があり、富山大学には伝統医薬学の研究拠点である和漢医薬学総合研究所が、行政機関には医薬品の開発研究や技術指導を行う富山県薬事研究所や、栽培試験や普及指導を行う富山県薬用植物指導センターが設置されています。

近年、県では薬用作物を中山間地等における耕作放棄地対策や地域の活性化等に資する品目として位置づけ、薬用作物の生産拡大を進めています。医薬品原料としてはシャクヤクやトウキの栽培が、食品原料としてはハトムギ等の栽培が盛んで、ハトムギは生産量・栽培面積共に全国一位となっています。また、里山に自生するクロモジやメグスリノキ等、地域資源を活用した取り組みもみられています。

本日は、主に食品として販売されている商品を展示致します。

■展示商品(一部の商品は試食・試飲可能です)

- ・トウキ : お菓子
- ・ハトムギ : お茶(ペットボトル、ティーパック)、ハトムギ豆乳飲料、お菓子、うどん、精白、粉末
- ・ウコン : タブレット、スムージー、粉末
- ・クロモジ : お茶(ティーパック)
- ・メグスリノキ: お茶(ティーパック)

## 7 和歌山県

新宮市では、約20万本の“天台烏薬”が栽培されています。この葉を利用した清涼飲料水などが作られています。県では、新宮産天台烏薬を有効活用するために、日本薬局方「ウヤク」に基づく品質評価、新宮産と流通品(中国産)との品質比較などを行っています。



天台烏薬の栽培風景

また、北山村では、この地域が原産となる“じゃばら”(かんきつ類)約7千本が栽培されています。同村では、この果実を利用したサプリメントなどの研究・開発を行っています。

## 8 新潟県胎内市

胎内市は新潟県北東部に位置し東は飯豊連峰西には日本海が広がり、海岸線に面した広大な砂丘地が広がっています。

その砂丘地園芸再生のため薬用植物である甘草に着目し、平成23年度に新日本製薬株式会社と地元企業、NPO、JAを含めた5者で薬用植物の甘草栽培に関する連携協定を締結し、栽培を開始、現在約50aを作付しています。単に甘草生産に留まらず、一つの産業として胎内市に根付かせたい思いから、6次産業化を目指しその第一段階として甘草を利用したお茶と美容石鹸を製作し今回出展しました。

出展企業「株式会社やさしい素材」